

大阪私立中学校高等学校連合会長賞

高齢者と向き合って

松原市立松原第五中学校 二年 岡田 おかだ 正長 まさなが

少子高齢社会となった現代、私たちにできることは何でしょうか？

僕は、デイサービスやデイサービス主催のコンサートなどでピアノを弾かせて頂いています。祖母が認知症のデイサービスで一三年間ボランティアを続けているのと、母がボランティアでピアノを弾いていたのがきっかけで、僕も参加するようになりました。初めて参加したのは小学四年生の時です。祖母に連れられて行きました。高齢者の方々と一緒にご飯を食べたり遊んだりゲームをしたりして過ごしました。最初はどうしたらいいか分かりませんでした。優しく接して下さったので、だんだんと慣れて楽しく一日を過ごすことができました。昼食を食べた後にピアノを演奏しました。高齢者の方が大きな声で歌って拍手して下さったのでとても嬉しかったです。昼食を食べた後にピアノを演奏するような活動をする機会が増えて、今では僕たちの演奏を楽しみにして下さっている方々がいて「また来てね。」や「次はいつ来てくれるの。」と言って下さるのでとても嬉しく思っています。内容は、ピアノソロや連弾、オカリナとのデュオ、歌の伴奏を主にしています。高齢者の方々が知っている懐かしの歌を演奏するので、全く知らない曲が多く、選曲が大変です。なので、ネットで調べたり、祖母に歌ってもらって伴奏を作ります。認知症の人は普段は同じことを繰り返し言ったり、会話も成り立たず、日常生活も難しい人が多いですが、懐かしの曲が流れると、とてもイキイキと歌って下さいます。その姿を見ると、本当に嬉しいです。心を込めて弾くと、相手にも伝わって会場全体が感動でいっぱいになります。音楽には人を魅了する力があり、人を元気にする力もあり、とても素晴らしいものだなあと感じます。僕は音楽をしていて良かったなあと思っています。

最近、新聞やニュースでデイサービスなどのスタッフの人が、認知症の高齢者を虐待しているということが報じられています。このようなニュースを聞くと、胸が痛みます。介護する立場の人も並大抵のことではないと思

いますが、やはり虐待はしてはならないことだと思います。祖母がボランティアで行っているデイサービスの人は、とても優しく高齢者に寄り添っておられます。ボランティアである祖母に対しても、体調を気づかたり、「また明日も来てね。」と声をかけて下さるようです。その一言のお陰で祖母も心が和み、楽しく行っています。また、僕たちが打ち合わせや本番で行った時も、とても優しく丁寧に接して下さい、気持ちよく演奏できます。そのデイサービスの代表の方がこうおっしゃいました。「この仕事は人間が好きでなくてはできない仕事だ。」と。この言葉を聞いて僕は介護の仕事だけではなく、どんな時でも、相手に寄り添って心から向き合うことが大切だと思いました。僕は、相手の気持ちを考えることが苦手なので、少しでも相手の気持ちを想像して理解できるようにになりたいです。

また、入居申込みをしてもすごい順番待ちでなかなか入居できないと聞きます。母の同僚の人の義理の両親が認知症になり、ずっと家で介護しておりましたが、症状が進み、家での介護に限界が訪れたのに、なかなか入居できないのでとても苦労されています。やっと最近義父だけ入居でき少し肩の荷が下りられたようです。このように、高齢者の方々はもちろんのこと、介護する家族も大変です。だから、家族だけで抱え込むのではなく、外に手助けを求められる社会になればいいと思います。これからは高齢者が増える時代なので、このような施設が増えて、高齢者にも介護する人にも優しい社会になったらいいと思います。またボランティア活動などが活発に行われて高齢者の笑顔を少しでも守っていかれたらいいと思います。

祖母も高齢者になり、しんどいところもありますが、ボランティアとして社会に参加できているのを見て、すごいなあと思います。これからも元気でできる限り続けていってほしいです。僕はピアノを演奏することで高齢者の方々が心和む楽しいひとときを過ごしてもらえるように、これからも頑張っていきたいと思っています。そして僕の祖父と祖母を大切にしていきたいです。